

キャンヘルプタイランド

ネットワーク通信

2017年11月25日発行 第79号

タイ便り

タイ在住の西川会長からの便り

10月には前国王が亡くなった月でした。10月に入り、町のいたるところにあるスクリーンに映し出される広告が一斉に白黒に変わり、暗い色の服を着る人が増え、街の雰囲気が一変しました。

プミポン前国王が亡くなってもう1年です。そのことを道行く人一人一人が感じていたことでしょう。亡くなってから100日後にテレビCMが解禁になり、街の雰囲気も人々の気持ちも少しずつ元に戻りつつあるように思えました。しかし、10月26日に実施される火葬の儀を前に、一気に1年前に舞い戻ったかのような自粛ムードが社会と包み込みました。

命日の10月13日、そして火葬の儀が執り行われた26日は私が勤務する学校も臨時休校となりました。

26日、特にやることのなかった私は街に出してみました。すると、街を歩くほぼすべての人が黒い服を着ています。買い物ついでにデパートの電気屋に入ると、客はまばらで、火葬の儀のテレビ中継に多くの店員が釘付けになっています。町の至る所に貼られた前国王の巨大な写真パネルの前では、多くの人たちが記念撮影をしています。そうした風景を見て、改めて前国王がいかに国民に愛されていたのを感じずにはいられませんでした。しかし、同時に、大切なものを失って茫然としていた1年前とは確実に違う空気が感じられたのも事実です。テレビのニュースでは、火葬の儀で泣き崩れるタイ人の姿が流れていましたが、街を歩いていると、1年を経て、それぞれがこの悲しみを受け入れ、自身の気持ちに区切りをつけようとしているような、ただただ涙に明け暮れるのではなく、心穏やかにご冥福を祈ろうというムードを感じました。

国からは服喪期間を3日間延長して10月29日までにするとの発表があり、それに合わせて喪章や半旗は取り外し、明るい服を着るようという指示がありました。昭和天皇のときもそうでしたが、タイ人自身もどう自粛ムードから抜け出したらいいのかわからないのでしょう。しかし、それも時間が解決してくれるはずです。

私の職場でも、31日に予定していたハロウィンパーティーはタイ人スタッフの声を聞いて中止としましたが、11月3日に行われた伝統行事ロイクラトン（灯籠流し）はいつもよりはやや厳かにですが、各地で実施されました。今でも、来年の祝日がどう変わるのか、国王誕生日と同じ日だった「父の日」は別の日に変わるのか変わらないのかなど、はっきりしないことが多々ありますが、そのうちはっきりとした答えが出るのでしょう。それとともに人々の気持ちも整理されていき、少しずつ、着実にタイは新しい時代へと移り変わっていくのでしょう。

西川弘達

報告1

～チェンマイ「カサロンの家」訪問記～

2017年8月、名古屋にある愛知大学の男子学生2名と女子学生2名が、タイ北部チェンマイにある山岳少数民族の子どもたちのための学生寮「カサロンの家」をボランティア訪問してくれました。それぞれのグループが時期をずらして「カサロンの家」を訪問し、短い期間でしたが寮の子どもたちと生活を共にし、小学校を訪問して交流を深めたり、田植えの準備などの農作業を手伝ったり、さまざまなボランティア活動を経験してきました。今回の体験をレポートにしてくれたのでご紹介いたします。

○8月前半に「カサロンの家」を訪問した男子学生2名の報告

タイでのボランティアを通して

角木陸

今回タイでボランティアをさせてもらったのは、カサロンの家という、山岳民族の子どもたちが学校に通うために建てられた学校寮と、エイズ孤児の子どもたちが住む希望の家という施設です。小学校低学年から高校生まで、合わせて約40人の子どもたちが暮らしています。私はそこで子ども達やスタッフと一緒に4日間を過ごしました。初のボランティアが、慣れない海外でということで、私にとってこの4日間はとても新鮮な経験でした。

初日にカサロンの家に着いたときは、子ども達は学校に行っており、スタッフが迎え入れてくれました。昼食を一緒に食べて、早速田んぼを耕す農作業からスタートしました。もちろんトラクターといった機械もなく、持たされたのは桑だけでした。しかも、たったの7人で約6面の広大な田んぼを耕すのがノルマだったのです。初の作業ということもあって、最初はやる気満々でスタートしたのですが、かなりぬかるんだ足場と使い慣れない道具、太陽の光がギンギンに射し込む炎天下に苦戦し、すぐにクタクタに疲れてしまい、まだ作業の半分が過ぎた頃なのにリタイアしてしまいました。いきなり洗礼を受けたような感じで、これから4日間大丈夫だろうかと不安でいっぱいでした。農作業を終えると、子ども達が学校から帰ってきて初めて対面しました。不思議そうに見てくる子ども達に、見えない壁があるように感じてしまい中々自分から話しかけられず、うまく打ち解けることができるのかな、という不安も感じていました。しかし、いざ子ども達と接してみると、言葉が通じなくてもジェスチャーで気持ちを伝えたり、サッカーや追いかっこなどの体を使った遊びで笑い合ったりと、壁なんて感じずに分かり合うことができました。



また、この4日間のボランティアをよりよいものにしてくれた大切な出会いもありました。それは、カサロンの家で育った大学生、ノーンとの出会いでした。彼は小学校から高校までをカサロンの家で過ごし、チェンライの大学に進学した21歳の大学生です。ちょうど夏期休暇でカサロンの家に帰ってきており、私達をサポートしてくれました。また、彼は英語を話すことができたので、スタッフと子供

達への通訳もしてくれました。さらに、ただ意思疎通を助けてくれるだけでなく、一緒に過ごしたり英語でお互いのことを話したりするのを通じて、現地よりもずっと環境が良いところで勉強できる自分たちはありがたみを感じてもっと頑張らなくてはならないと思いました。贅沢できるお金も時間もあまりないのに、将来銀行員になるためにハングリー精神を持って勉強に励んでいるノーンの姿が、同じ大学生なのに随分と大人に見えました。

今回のボランティアでは、いつもとは全く違う環境や文化に触れながら4日間過ごすことによって、新しい新鮮な刺激を受けるだけでなく、自分を見つめ直すこともできました。この4日間から得られたものは、日本にいては必ず手にすることができないものだと思います。海外でボランティアをするという体験がキャンヘルプタイランドを通じて、初めて体験することができ、また、「カサロンの家」と「希望の家」の皆と出会えて、本当に良かったです。

海外ボランティア in タイ

藤城 充貴

私は、夏休みに何かみんなと違うことをしたいと思っていました。何をしようか迷っていた時に、同じダンスサークルの先輩に海外ボランティアの体験談を聞いたことを思い出しました。とても楽しくいい経験になるということを知っていたので、私も行ってみたいと思いました。しかし、私は海外に行ったこともなければ、ボランティアといってもゴミ拾いぐらいしかやったことがなく、とても不安でした。一人で行く勇気が出なかったため、同じサークルの仲のいい後輩を誘って2人で海外ボランティアに行くことを決めました。

私たちは、タイのチェンマイにボランティア先に行きました。ボランティア先のスタッフがチェンマイの空港まで迎えに来てくれ、車で約30分かけてボランティア先に向かいました。スタッフの方は、日本のことなど色々な話題を英語や日本語で気さくに話しかけてくれ、車の中ですぐに緊張がほぐれました。ボランティア先は、山岳民族出身の子供達が親元を離れて住む「カサロンの家」と、エイズ孤児が住む「希望の家」の2つがあります。私



たちは、「カサロンの家」に宿泊させてもらいました。1日目は、着いてすぐスタッフの人に休むか、仕事をするか、どちらがいいか聞かれ、ここで休んだら来た意味がないと思い仕事をさせてもらうことにしました。私たちが行った時期が雨季ということもあり、最初の仕事が田んぼを耕すことでした。とても疲れたこともそうですが、スタッフの方に何回も「デンジャラス」と警告されたカタツムリの殻を踏んで怪我をしたことも今となってはいい思い出です。女の子達で行ったらやらせてもらえないことだと思うので、とても貴重な体験をさせてもらいました。

2日目は、スタッフの方がチェンマイの観光地を案内してくれました。タイに行って、初めての観光だったためすべてに圧倒されました。その後、「希望の家」に行き、子供達が帰ってくる間、子供達が食べる夜ご飯を作る手伝いをしました。約40人分のご飯を作るのは初めてだったため、量が多く大変

でした。子供達は、学校から帰ってきたらすぐ遊び始めました。私達は、まだ一緒に遊んだことがなかったので一緒に遊んでくれるか心配でしたが、名前を呼んでくれ、たくさん話しかけてくれてすぐに打ち解けることができました。言葉がうまく伝わらなくてあまり積極的になれなかった私とは違い、子供達は積極的に来てくれとてもうれしかったです。

3日目は、子供達と一緒に、敷地の草を刈って木を植えました。ミミズなどの生き物のタイ語を教えてくださいました。夜は、私達が最後の夜だったので皆集まってくれ、レクリエーションをやり、歌を歌って教えてくださいました。そのお返しに私達もダンスを披露し、子供達にダンスを教えました。普段あまりダンスに触れる機会がないためか、思ったより喜んでくれました。

短い期間でしたが、他の人ができない、いい経験をすることができました。何も困ることなく過ごせたのは、寮母さんやスタッフの方のおかげなので感謝の気持ちでいっぱいです。また機会があればタイ語を勉強して、長い期間行きたいです。今回、キャンヘルプタイランドのボランティアに参加して、自分自身成長できたと思うのでとてもよかったです。

〇8月後半に「カサロンの家」を訪問した女子学生2名の報告

田中優衣

私にとって、タイは初めての海外でした。行く前までのタイのイメージはとにかく暑い、ご飯は辛いくらいしかありませんでした。実際に行ってみると、気候は日本の夏と似ていてタイ料理は辛いものも様々あります。私はチャーハンをよく食べていましたが、タイ米のチャーハンはパラパラで味のバリエーションもいっぱいあったので何回食べても飽きませんでした。タイのチャーハンはとてもオススメです。



今回宿泊させていただいたカサロンの家では多くの初めての経験をしました。子供

たちと一緒にトラックの荷台に屋根がついた車に乗ったり、ご飯を食べる前にお祈りしたり、ホースから出る水でシャワーを浴びたり、蚊帳の中で寝たり、鶏の鳴き声で起きる朝など毎日が新鮮でした。実際に現地へ行って一緒に生活することで、子供たちの日常生活を間近で感じることができました。

タイ語は話すことも聞き取ることもできないので不安でしたが、子供たちは英語や少しの日本語で一生懸命コミュニケーションをとろうとしてくれて、お互い言語が通じなくても関係なしに汗だくなるまでたくさん遊んでくれたのがとても嬉しかったです。

また、寮母さんがいろいろなタイ料理を作ってくれたおかげでタイの家庭料理をいろいろ味わうことができました。どれも、とてもおいしかったです。日本で食べたことのないフルーツもたくさん食べました。

タイの小学校にも訪問しました。みんなで和柄の折り紙を使って箱を作り、日本から持ってきたお菓子を配ってその箱の中にお菓子を入れてもらいました。みんなとても喜んでくれて、お菓子は特に動物などのイラストが描かれている飴が人気でした。

初めての海外ということもあり、出発するまでは緊張や不安がありました。到着してからはみんなが優しくフレンドリーに接してくれたおかげであっという間の4日間でした。本当に行ってよかったです。

原口 楓

私達は今回、チェンマイにあるカサロンの家でボランティアを行いました。ボランティアとしては、子供達との交流が主な内容でした。しかし、私達と子供達が打ち解けられたのはボランティアを始めて、しばらく経ってからだったように思います。

はじめはたいへんな緊張と不安、また、英語が通じない環境であった為に、子供達とほとんど話すことが出来ませんでした。しかし、彼らの天真爛漫な笑顔に癒され、言葉はひとつの手段に過ぎず、笑顔やジェスチャーで通じ合えることに気がつきました。

次の日から、子供達と汗だくで走り回ったり、宿題を手伝ったり、たくさんのタイ語を教わったり、日本の絵本を読み聞かせしたり、蚕のサナギの素揚げを食べたり、大掃除をしながら寮を作った人々に思いを馳せたり...

思い出だけで、またすぐにでもカサロンの家に戻りたくなるような、かけがえのない体験ができました。

最終日はタイから帰りたくなくて、ゆっくりしていたら、帰りの飛行機に乗り遅れかけました。本当に焦りましたが、今では笑い話です。希望の家の皆さんは本当に優しく、ユーモア溢れる人たちでした。心から、勇気を出して行ってよかったですと思います



キャンヘルプタイランドでは、ほぼ毎年、タイやカンボジアへ行くスタディーツアーやワークキャンプを行っています。最近の大学生は、団体行動のツアーより少人数のグループまたは個人で海外ボランティアなどに参加することを望む傾向にあるようです。そういった学生の希望もどんどん吸い上げてキャンヘルプタイランドの活動を広めていきたいです。

事務局では、これからも海外でボランティア活動をしてみたいという学生を積極的にサポートしていきたいです。そして、キャンヘルプタイランドの活動に興味を持ち、事務局で NPO の運営にも参加してくれるような学生が増えることを願っています。

速報2

～おおしまてづくり絵本コンクール～

キャンヘルプタイランドでは、図書支援プログラムの一環として、毎年日本国内の創作絵本コンクールに、タイの子どもたちの手作り絵本を出品してきました。

今年は、富山県射水市の大島絵本館のコンクールで、タイ東北部ムクダハーン県の学生グループが作った絵本が「北陸中日新聞奨励賞」を獲得しました。タイの子どもたちにとって、遠く離れた日本での賞の受賞はこれからの創作活動にとっても励みになることでしょう。

報告3

～ワールド・コラボ・フェス2017～ 坂 茂樹

今年も、10月14日15日の2日間にわたり、名古屋栄オアシスもちのき広場で「ワールド・コラボ・フェス2017」が開催されました。キャンヘルプタイランドは、今年3月に行った「カンボジアトイレ支援」やタイの山岳少数民族の子どもたちの支援の写真を展示するとともに、タイから持ち帰った雑貨などを販売しました。毎年秋に行われるイベントなので、来年もぜひ参加したいと思います。



報告4

～名古屋千種ロータリークラブ35周年記念式典～

坂 茂樹

10月17日（火）、名古屋栄にある東急ホテルで、名古屋千種ロータリークラブの創立35周年記念式典が行われたので、副理事長の大矢と理事の坂が出席してきました。名古屋千種ロータリークラブ様からは、毎年多くの寄付金を頂くとともに、2002年の名古屋千種ロータリークラブ創立20周年記念事業では、タイの東部にあるサッカーオ県のバンライサムシー学校での校舎建設支援を行いました。今年の8月にはカンボジアの小学校でのトイレ建設事業をお手伝いさせていただき、それと同時に、35周年記念事業としてとして、カンボジアの小学校へ文房具や井戸用ポンプを寄贈して頂きました。

記念式典では、当会副理事長の大矢が「35周年記念事業」の目録を受け取りました。そして、今後もキャンヘルプタイランドへのご支援の継続をお願いしてきました。



お知らせ

～「カサロンの家」牛小屋建設キャンプ参加者募集～

タイ北部チェンマイ県に、キャンヘルプタイランドが建設した山岳少数民族の子どもたちの為の学生寮「カサロンの家」で牛小屋建設ワークキャンプを行います。

「カサロンの家」で牛を飼うことにより、子牛の生産、肥育を行い、それらの販売益を子どもたちの食費に充てるプログラムです。この事業は、2017年度の給食支援プログラムとして行います。

ワークキャンプの参加者の皆様には、「カサロンの家」で寝泊まりしながら、牛小屋の建設作業を手伝っていただきます。また、現地の子どもたちとの交流もします。

参加ご希望の方は、事務局までご連絡ください。詳しい資料と申込書などを郵送いたします。

2018年春 「カサロンの家」牛小屋建設ワークキャンプ

【場 所】 タイ王国チェンマイ県ドイサケット郡「カサロンの家」

【募集人員】 10人（最小催行人数3人）

【日 程】 2018年2月20日（火）～2月26日（月） 7日間
途中参加・部分参加も対応いたします（チェンマイ空港送迎）

【参加費用】 43,000円（ネットワーク会費1年分を含む）
※航空券代は別途必要です。タイ チェンマイまでの往復航空券が必要です。

【行 程】 モデルコース（中部セントレア空港発着便利用）

	日 付	内 容	宿泊
1	2月20日（火）	朝セントレア発 夕方 チェンマイ国際空港集合	カサロンの家
2	2月21日（水）	カサロンの家で牛小屋建設作業	カサロンの家
3	2月22日（木）	//	カサロンの家
4	2月23日（金）	//	カサロンの家
5	2月24日（土）	子どもたちとの交流&観光	カサロンの家
6	2月25日（日）	子どもたちとの交流 夕方 空港へ バンコクへ	カサロンの家
7	2月26日（月）	深夜便でセントレアへ 朝セントレア着	機 内

※部分参加 部分参加をご希望の方は個別に対応いたしますので事務局までご連絡ください。

【申込手続き】 申込み〆切 2018年1月26日（金）

- 参加申込書、誓約書をお送りください
- 航空券は原則として各自で用意していただきます。キャンヘルプタイランドでも 航空券手配のお手伝いをいたします。希望者は事務所までご連絡ください。

【問い合わせ・申込書送付先】

事務局 〒450-0003

名古屋市中村区名駅南2-11-43 NPO ステーション内

キャンヘルプタイランドB係

Tel/Fax : 052-566-5131 E-mail : office@canhelp.jp

<http://canhelp.jp>

（ホームページでもワークキャンプの情報提供を行っています。ぜひアクセスしてみてください!）

お知らせ

～ご寄付のお願い～

各プログラムへのご寄付を広く募集します。ご協力くださる方は、同封の振込用紙もしくは郵便局に備え付けの振込用紙を使用いただき、必要事項及びご寄付を希望のプログラム名（寄付金の使途）を記入してお振込み下さい。尚、寄付金の使途をご指定にならない場合は、こちらで振り分けさせていただきますのであらかじめご了承ください。

奨学金プログラム	1 □	10,000 円
ランチプログラム	1 □	5,000 円
建設プログラム	1 □	5,000 円
図書支援プログラム	1 □	1,000 円
山岳民族支援プログラム	1 □	10,000 円
カンボジア支援プログラム	1 □	10,000 円
運 営 基 金	1 □	1,000 円
会 費 ※	1 年	3,000 円

※ 会員制度とは…
 会員になっていただいた方には、年 4 回「ネットワーク通信」をお送りし、キャンヘルプタイランドの活動やイベント情報、タイにまつわるいろいろな情報をお伝えしていきます。年 1 回、会費 3,000 円をお振込みください。

寄付金・会費のお振込みは…

<郵便振替口座>
 口座名：NPO キャンヘルプタイランド
 番 号：00280-2-43793

運営委員会

(2017 年 8 月～10 月)

活動	月日	場所	内容
運営委員会	8 月	事務所	夏のワークキャンプ計画
運営委員会	9 月	事務所	奨学金授与式準備
運営委員会	10 月	事務所	奨学金授与式報告

運営委員募集中！

通常は毎月第 4 土曜日に事務所に集まり、会の運営について話し合っています。見学でも結構ですので是非事務所へ遊びに来てください。

次回の運営委員会は **開催日未定のため参加希望の方は事務局までメールでお問い合わせください。**

編集後記

先日、名古屋栄で開催されたワールド・コラボ・フェスのフィナーレで大抽選会がありました。10 月 14 日と 15 日の 2 日間のイベント中にスタンプラリーやアンケートの回答などで抽選券がもらえたので、スタッフ総出で 19 枚の抽選券を集めました。過去には、名古屋にある全日空ホテルの宿泊券が当たったことがあります。ここ数年はハズレが続いていました。しかし、今年は違いました。最後に抽選された春秋航空提供のセントレア～上海のペア航空券が、見事に当たりました。でも、「タダより高いものはない」ということになりそう…

<キャンヘルプタイランドネットワーク通信 Vol.79>

発行 NPO キャンヘルプタイランド
 発行人 西川 弘達
 編集人 坂 茂樹
 発行日 2017 年 11 月 26 日
 住 所 〒450-0003
 名古屋市市中村区名駅南 2-11-43
 NPO ステーション内
 Tel & fax 052-566-5131
 (OPEN: 土曜の 13～16 時頃)
 E-mail: office@canhelp.jp
 ホームページ: http://canhelp.jp